

2012. 4. 7



国名・都市名の付いた名曲・佳曲を集めて 第2回



プログラム

今回は2009年に一度特集しました「国名・都市名の付いた名曲・佳曲を集めて」の第2回目をお送りします。モーツァルトの交響曲第38番は、プラハで初演されたことからその名が付けられました。次から次へと湧き出る音楽の流れは、爽やかさと躍動感に満ち溢れていて、全交響曲の中でも一際魅力的な傑作です。今年没後50年に当たるクライスラーの作品から2曲。ピアノによる太鼓のリズムに乗って異国情緒漂うヴァイオリンが奏でる「中国の太鼓」、ウィーンへの郷愁が込められた「ウィーン奇想曲」は、高度な技巧を駆使して、幻想的で情緒豊かな世界が広がる名曲です。「ガランタ舞曲」のガランタとは現スロヴァキア領の町の名ですが、印象的な旋律と民俗舞曲が交互に混じり合いながら華麗なオーケストラの妙技を奏でるコダーイの代表的な作品です。ミヨーのブラジルへの郷愁は、ブラジル滞在中の印象や思い出を基に書かれた作品で、ラテンのリズムを多用した色彩感に溢れた佳曲です。元はピアノ曲ですが、より演奏機会の多い管弦楽編曲版でお聴きいただきます。ファリヤの「スペインの庭の夜」は、ピアノと管弦楽の為の作品ですが、協奏曲というよりは、時に幻想的、情熱的、神秘的に変化するオーケストラの色彩的な響きの中で、一つの楽器のように自由で美しく溶け込んだピアノが強い印象を残す名作です。ローマの謝肉祭の情景を描いた「ローマの謝肉祭」とハンガリー兵士の勇ましい進軍を描写した「ハンガリー行進曲」は、ベルリオースの良く知られた名曲です。今日は世界各地を音楽で旅してみましょ。

ウォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791):

交響曲第38番ニ長調K.504 “プラハ” ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団
(1985. 5.9 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive)

フリッツ・クライスラー (1875~1962):

中国の太鼓 / ウィーン奇想曲

ワンダ・ウイウコミルスカ(ヴァイオリン) / アントニオ・バルボーサ(ピアノ)
(1971年録音 フィリップス盤)

ゾルタン・コダーイ (1882~1967):

ガランタ舞曲

ヤーノシュ・フェレンチーク指揮ハンガリー国立交響楽団
(1979.11.27 東京文化会館大ホールでのLive)

*** 休憩 ***

ダリウス・ミヨー (1892~1974):

ブラジルへの郷愁 ~ 抜粋

セルジユ・チェリビダツク指揮シュトゥットガルト放送交響楽団
(1979.10.31 シュトゥットガルト、ベートーヴェンサールでのLive)

マヌエル・デ・ファリヤ (1876~1946):

交響的印象 “スペインの庭の夜” (ピアノと管弦楽のための)

1. ハネラリーフェにて 2. はるかな舞踏 3. コルドバの山の庭にて

アリシア・デ・ラローチャ(ピアノ)
ガルシア・ナバロ指揮シュトゥットガルト放送交響楽団
(1986.1.14 シュトゥットガルト、ベートーヴェンサールでのLive)

ハクトール・ベルリオース (1803~1869):

序曲 “ローマの謝肉祭”

マルチエツロ・ヴィオッティ指揮ミュンヘン放送管弦楽団
(2001.5.13 フリードリヒスハーフェン、ツェツペリン伯爵邸でのLive)

ハンガリー行進曲 (ラコッツィ行進曲) — “ファウストの劫罰” より

ユージン・オーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団
(1967.5.4 大阪フェスティバルホールでのLive)